

きょうからシルバーウィーク、いつの間にか暑かった日々が過ぎ、秋風が心地よい季節になりました。今号から新シリーズのコラム「この本読んだ？」と「イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する」がスタートです。現在会員登録数 1,808 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 10 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 【1】お知らせ
- 【2】コラム
 - 《1》この本読んだ？
 - 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する
 - 《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 61
 - 《4》行って来ました！
- 【3】全国のイベント紹介
- 【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ ■

● 「第32回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（土）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第29号の原稿を募集しています。詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■ 【2】コラム ■

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Satoko's Talk

『しばしとどめん北斎羽衣』 花形みつる/作 理論社 2015年6月
対象年齢：中学生以上

あらすじ：中学生の為一は、祖父の骨董屋をつぶし、母に逃げられた父と二人暮らし。ある日、父が江戸時代からタイムスリップしてきたという年老いた葛飾北斎を家に連れて来る。不登校だった為一は北斎のお守役を命じられ、父は、北斎に絵を描かせて借金を返そうとたくらむ。

S：子どもの時から絵が得意で、中学・高校時代は美術部で、マンガ家か画家になりたかったと言われている花形さんらしい作品で、「芸術」がモチーフになりながらも、ユーモアにあふれた作品でした。当財団主催の2009年のご講演を思い出しながら読みました。

Y：まじめな為一と、ダメ親父やがんこじじいの北斎との会話が軽妙で、為一の突っ込みに何度も笑ってしまいました。

S：だめな大人を支えながらも、孤独を抱えている為一も魅力的でしたが、自分勝手に気が弱く、優しいところもある経済力のない父親、絵のことにすると他のことが見えず、好奇心旺盛でわがままで、人間に対する観察力に優れた北斎の二人のキャラクターが作品を盛り上げていました。いわゆる、世間の「はずれ者」たちの活躍が楽しめます。

Y：謎解きの要素もこの作品を読ませます。北斎は江戸に帰ることができるのか？為一は不登校から脱することができるのか？父親は借金を返せるのか？最後のどんでん返しまで読者を飽きさせません。

S：私は、この本をきっかけに、北斎についていろいろと知ることができました。生涯、描きたいという衝動を持ち続けた天才芸術家で、奇行を繰り返していたことなどが、作品にうまく取り込まれており、現代にタイムスリップしても動じず、コンビニを使いこなすようなユニークな北斎像を作り上げていたと思います。

Y：各章名が北斎の絵のタイトルになっているのも憎い演出です。

S：江戸名所案内としても読むことができ、花形さんのご出身の横須賀も出てきます。そして、表紙の浮世絵風女子高生もおしゃれです。

Y：タイトルの「羽衣」が暗示するように、この本のテーマの一つは「恋愛」です。家族、学校、恋愛と、YA文学の主要テーマが三拍子揃ったタイムファンタジーをぜひ、中高生に楽しんでもらいたいです。

*本コラムの新シリーズの第1回です。Yasukoが毎回、児童文学者をゲストに迎え、新しい本について語ります。今回のゲストは当財団特別専門員の小松聡子さん(S)です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第1回「グスコブドリの伝記」

「自己犠牲」の引きがね

<ブドリは、すぐネリたちをつれてそこへ行って、白い石灰岩の墓をたてて、それからその辺を通るたびにいつも寄ってくるのです。>

雑誌『児童文学』第2冊(1932年)に発表された童話です。ありうべかりし

(あったであろう)賢治の自伝ともいわれる作品ですが、主人公が自分を犠牲にして、カルボナード火山島を爆発させ、冷害を防ぐ結末には、多くの疑問も語られてきました。

先日、勤務している大学の大学院の授業で、この作品をとりあげて、発表してくれたのはTさんです。

Tさんが重要な参考文献として紹介したのが、大島丈志さんの論文「「グスコブドリの伝記」論—「家族」と「死」の視点から—」(2001年)です。大島は、グスコブドリの両親の死と、彼の死を結びつけようとします。ブドリは、イーハトヴの大きな森に生まれました。ところが、10歳のとき、両親を冷害と飢饉によって失います。木こりの父と母が、とぼしくなった食料をブドリと妹のネリに残して出ていくのです。

大島は、「ブドリの両親が、こどもたちを生きのびさせるために、強い決意で森の奥へ去っていったように、ブドリの選択は、「たくさんのブドリのお父さんやお母さん」や「たくさんのブドリやネリ」への激しい愛の表われ以外の何ものでもなかった」(栗原敦「賢治童話名作館 グスコブドリの伝記」1986年)といった意見を踏まえて、考えをすすめます。そして、先駆作品「ペンネンネンネン・ネネムの伝記」や下書稿「グスコブドリの伝記」にはなく、「グスコブドリの伝記」の「九、カルボナード島」に加筆された一節を見出すのです。そこには、ブドリがお父さんたちのお墓の存在を知らされ、お墓参りをしたことが記されています。「二、てぐす工場」に出てくる男が、森で亡くなった両親をそっと土に埋めておいてくれたのでした。

私も、お墓参りをしたブドリには、自分たちは両親に捨てられたのではなく、守られたのだということがよくわかったのだらうと思いました。その後、ブドリは、幾晩も考えた末、あの年のような冷害に向かいつつある天候を変える命がけの仕事に踏み切ります。「先生、私にそれをやらしてください。」——そういったブドリは、「おれは森へ行って遊んでくるぞ。」と家を出ていったお父さんに自分を重ねていたのではないのでしょうか。(馬車別当)(本文の引用は、角川文庫版『セロ弾きのゴーシュ』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 61

その9 おはなしを語る(3) おはなしを選ぶ 11

聞き比べをした3つのおはなしの中で、今回は3つ目の「とりのみじい」(『とんとんむかし その1』小松崎進/著 鳩の森書房 1976年8月)のおもしろさについて過去2回の「鳥のみじい」(『子どもに語る日本の昔話2』稲田和子・筒井悦子/再話 こぐま社 1995年12月)、「鳥のみじさ」(『雪の夜に語りつぐ』笠原政雄/語り 中村とも子/編 福音館書店 1986年5月)と比べながら考えたいと思います。

「とりのみじい」の前半は、1回目の「鳥のみじい」とよく似ています。つまり、とても簡潔でわかりやすい構成になっています。異なる部分は、冒頭で「じいさまとばあさま」に「働きもんの」という説明がついている点、飲み込んだ理由が「やれまあ、かわいい声だ」と言おうとしたとなっている点、

鳥の鳴き声の最後が「ビビラビーン」ではなく、「チンパラリーン」であることぐらいです。

一方、「とりのみじい」が「鳥のみじい」「鳥のみじさ」と大きく異なるのは、後半になまけもののじいさんが出てきて、はじめに登場したじいさんの真似をして、失敗するという昔話でよくある構成になっている点です。

前半と後半の対比はとてもはっきりしています。働き者と怠け者、小さなかわいい鳥とまっ黒いからす、「あやちゅうちゅう こやちゅうちゅう」と「ガーガー ガタコン グーグー ガタコン」という鳥の鳴き声、殿様にほうびをもらうのと家来にぶたれて門の外に放り出されるという結末で、2度目のじいさんの失敗ぶりがユーモラスで思わず笑ってしまいます。

このように、このお話は、鳥の声、鳥を飲み込んでしまっておへそからしっぽが出て鳥が鳴くという不思議や、じいさんとばあさんが宝を得るという幸運という前半を楽しむと同時に、それらをことごとく失敗する後半を楽しむことによって、怠けたり、欲深かったりすることの愚かさを悟ることとなります。つまり、「とりのみじい」は、他の2作より複雑ですが、複雑であるからこそその楽しみが保証されており、少し年長の子どもなら、十分に楽しめるようになっています。

3つのおはなしを比較して言いたかったことは、類話は、どれか一つだけが優れているのではなく、それぞれに持ち味があることと、聞く年齢によって、また、語り手が何を伝えたいかによって選ぶ必要があるということです。

*次号は「その9 おはなしを語る(3) おはなしを語る1」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《4》 行って来ました！

テアトル梅田で上映中の映画「ふたつの名前を持つ少年」を観てきました。この映画は、実話をもとにして書かれた『走れ、走って逃げろ』（ウーリー・オルレブ作 母袋夏生訳 岩波書店 2003年、岩波少年文庫 2015年）が原作です。原作を読んでから観に行きました。

第二次世界大戦中のポーランドで、8歳の少年スリックが独り、ゲッター（ユダヤ人強制住居区）から脱出し、ユダヤ人であることを隠すためユレクと名前を変え、苦難を乗り越えながら、終戦までの3年を森や農村で生き延びた話です。

映画は、生き別れになった父の「絶対に生きろ、名前や家族を忘れてもユダヤ人であることを忘れるな」という言葉をかみしめながら、吹雪の森を凍えながらさまよう場面から始まり、壮絶な物語が始まるのだと予感させられます。

行き倒れたユレクを救った独り暮らしのヤンチック夫人は、ユレクにポーランドの孤児としての身の上話を覚えさせ、キリスト教のお祈りのしかたを教

え、十字架の首飾りをプレゼントしてくれますが、ゲシュタポが現れ、ユレクは逃げなくてはならなくなります。

それからのユレクは、覚えた身の上話を語り、農家を転々とし、家畜の世話などの仕事と引き換えに食事や寝る場所をもらい、身に危険が迫ると森に逃げるとい生活の繰り返します。賢く愛嬌のあるユレクは、家族のように受け入れられることもあれば、だまされてナチスに引き渡されたりもします。

脱穀機に腕をはさまれ、運び込まれた病院では治療を拒否され、翌日別の医者執刀でかろうじて命をとりとめたユレク。最初は泣いてばかりいますが、やがて片腕で何でもできるようになります。その病院でも、ナチスに通報されてしまいます。

次々起こる過酷なできごとが淡々と描かれていることで、ユレクが生きるため生き抜くために、たくましく前に進んでいたことを感じました。ようやく戦争が終わる頃ユレクは本当の名前を思い出すことができますが、そのあとどう生きていくかという選択にも納得させられました。四季の森や自然の風景も美しい映画でした。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

学校図書館を学ぶ！ 「学校図書館は授業にどう関わるか？」

講 師：頭師康一郎（豊中市立桜井谷東小学校 学校司書）

日 時：10月13日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

会 場：大阪市立中央図書館5階（大阪市西区北堀江）

参加費：無料 資料費：100円 申込み：不要

主 催：大阪府子ども文庫連絡会

共 催：大阪市立中央図書館

● 多文化にふれる「えほんのひろば2015」

自由に手にとって楽しめる日本語と外国語の絵本約700冊。大人も子どもも、国籍や言語の壁を超えて、絵本を仲立ちに多文化に出会い交流する催しです。

日 時：10月17日（土）午前11時～午後4時

18日（日）午前11時～午後3時30分

場 所：大阪市立中央図書館5階（大阪市西区北堀江）

当日プログラム：

17日午後2時 「多言語おはなし会」 いろんな国のことばで絵本を読みます

18日午後1時30分 「おはなしと音楽で韓国を感じてみよう」 講師：柳水香

参加費：無料 申込み：不要

主 催：NPO法人 おおさかこども多文化センター

● 「森とともにだちになろう！ ー森の絵本づくりー」

貝塚市にある自然いっぱいの少年自然の家で、森の散策・自然の素材探し、自分だけの絵本づくりを楽しみます。

講 師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 主任専門員）

月 日：10月24日（土）～25日（日）1泊2日

対 象：幼稚園年長～小学生を含む家族、小学生以上は子どもだけの参加可
定 員：10家族または子ども30人まで
参加費：有料 申込み：必要（申込先着順）
主 催：大阪府立少年自然の家
協 力：大阪府立中央図書館 / 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html
※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『しばしとどめん北斎羽衣』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガN0.61プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は10月13日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

秋は空模様が気になる行事が多く、たびたび天気予報をチェックする。と言っても、傘マークや降水確率にとらわれず、自己流予報をするのだが、不思議と当たる気がする。先日も、降水確率90%だったが「観戦中は降らない」と見込み、出かけることにした。案の定、雨は小康状態、楽しくガンバの勝利に酔うことができた。

地域限定の“予報士”を名乗りたいぐらいだが、せいぜい24時間以内限定で、やはり先の読めないオトコなのだ…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
